

第三回 国土のモニタリング研究会議事概要

1. 日時 平成14年11月11日(月) 17:30～19:30
2. 場所 3号館11階共用会議室
3. 出席委員 森地座長、石田委員、城所委員、佐藤委員、瀬古委員、中村委員
4. 議題
 - (1) 国土のモニタリングの実施と分析について
 - (2) その他
5. 主な意見

(1) 国土のモニタリングの実施と分析について

国際交流の動向

- ・ 交流活動の分類は、国、自治体、企業、市民団体、個人という主体別に分けて整理すると分かりやすい。
- ・ 国土の空間像の理念が前提としてあるべきだが、暗黙のうちに、「地域間格差の解消という発想があるように感じる。」「個性ある地域」の観点からも整理が必要。
- ・ 海外からの受入れの現状は、諸外国と比べてどうか。地域や産業分野によっては、外国人を受け入れる意義が大きいものもある。定住者や訪問者への利便性や魅力について、地域ごとにみるべき。
- ・ インフラ面では日本だけでなく、アジアの中での位置づけなど国際的な情報が必要。

都市整備の動向

- ・ 「都市整備の動向」は他の項目と重なるところが多いが、重複を避けずうまく整理してほしい。一方、密集市街地のように大都市圏固有の問題もある。
- ・ 東京や大阪のワールドシティとしての競争力について都市整備の中で見ていくべき。また、日本の国際競争力は大都市が牽引しなくてはいけない。
- ・ 国際競争力についてだが、研究開発・金融は東京に集中していること、国内投資の減少分が海外に向かっていないことなど、発展途上国型の一極集中になる可能性がある。国土のバランス、活力を考えた時に、何がキーになるかクリアに見せるべき。
- ・ 我が国は、アジアのブロック経済の戦略が、特に地域レベルで欠けている。アクセシビリティについても、それぞれの地域の戦略の観点から、グローバルに分析する。移動時間だけでなくコストも重要な要因。

国土の基礎的モニタリング

- ・ 重ね合わせにこだわらず、図面にできるものはどんどん図化していけばよい。

提供して議論していくことに意味がある。

- ・ データの提供法としては、自らやってみせる、データを使い易いようダウンロード出来るようにして、使用者に報告義務を求める、という形にしてはどうか。基礎的モニタリングについては、使い易さに重点がおかれるべきもので、こちらで分析に力を入れなくともよい。
- ・ 量のモニタリングではなく質のモニタリングに変わっていくべき。価値判断を入れなくても質の評価が出来るものもあるはず。

(3)その他

- ・ 現状でモニタリング上不足しているデータを整理してほしい。
- ・ 全総策定時の各省からの資料等のバックデータを利用すべき。また、政策評価法が施行され各部局が指標を使って評価を行っているので、活用すべき。
- ・ 数字的に小さくとも新しい動きとして注目すべきことも指標に入れるべき。